

タイと山形の交流拡大を目指して

山形県タイ友好協会の設立と訪タイミッション

山形県タイ友好協会（事務局：庄内銀行地方創生部）

■ 山形県タイ友好協会とは

2018年11月5日に山形県とタイ王国との文化、経済、観光、教育、スポーツ等の交流促進を目的に庄内銀行が事務局となり山形県タイ友好協会が設立された。

本協会は、2017年11月に日タイ修好130周年を記念し、庄内銀行の主催にてバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使を初めて山形県に招き、タイ投資セミナー等を開催したことを契機に設立の機運が高まったのが始まりである。

特別顧問にバンサーン・ブンナーク大使と吉村美栄子山形県知事、会長には寒河江浩二一般社団法人山形県経営者協会会長（株山形新聞社代表取締役社長）が就任した。また、顧問や役員には、自治体や主要経済団体、金融機関等の代表が就任するなどオール山形にて参画の下、設立時には法人・団体215先、個人25先の合計240先^{*}に上る会員数にてスタートした。会員の業種も製造業から小売、旅行会社、教育、スポーツ、サービス業まで幅広く、県内の他の国際交流協会の中でもトップクラスの会員数で、タイへの関心の高さが伺える。（※2019年3月末現在会員数：261先）

本協会の事業計画としては、タイのテレビ局CHANNEL3の山形県内でのドラマロケ誘致活動、タイスキー連盟の蔵王合宿の誘致活動、タイのサッカーチームの山形合宿誘致、訪タイミッション、現地商談会等により、インバウンドのみならずアウトバウンドを含め相互交流を進めていく予定である。

■ 第1回訪タイミッション報告記

本協会設立後の初めての大きなイベントとして、2019年2月3日～7日の日程で、山形県へのインバウンド拡大等相互交流を目的とした第1回訪タイミッションを実施した。寒河江会長を団長に、平井副会長（山形県観光物産協会会長）、佐藤副会長（山形県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長）、上野副会長（庄内銀行頭取）、顧問の森舟形町長等、約50名が参加した。参加団員の職種はさまざまであり、何度もタイに訪れている団員もいれば、タイには興味があったものの今回初めて訪問するという団員も見られた。

2013年にタイ国民に対する訪日ビザ免除後、日本へのタイ人観光客は年々増大し年間100万人に達する中、

山形県タイ友好協会

- 会長 寒河江浩二（山形県経営者協会会長 《株式会社 山形新聞社 代表取締役社長》）
- 特別顧問 駐日タイ王国特命全権大使 バンサーン・ブンナーク 氏
山形県知事 吉村 美栄子 氏
- 設立 2018年11月5日
- 事業内容 1. 山形県とタイ王国との文化、経済、観光、教育、スポーツ等の交流の促進
2. 山形県に関する情報発信事業
3. タイ王国に関する経済セミナー開催など啓発・理解促進事業
4. その他の関係団体・機関との協力事業
5. 会員相互の親睦を図るための会合・行事の開催
- 事務局 〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 株式会社庄内銀行地方創生部内
TEL 023-626-9050 FAX 023-626-9036
ホームページ <http://www.bb-town.jp/yamagatathai/>

山形県への来訪は約6,000人（全体の0.6%）とわずかなのが現状だ。ミッション団は、まず、タイ国政府観光庁を訪問しユタサック・スパソーン総裁と面談した。タイ国政府観光庁は本来、海外からタイへの観光誘客を担っているが、最近は2国間の双方向交流を推進し、国内外への情報発信、関係機関・団体へのサポート等も行っており、インバウンド拡大を目的にしている本協会では、同行との関係構築が重要である。東京に留学経験のあるユタサック総裁は山形についてもよく知っているようで、「タイ人は牛肉が好き。その中でも米沢牛がナンバーワンだ」といった話も出た。多くの意見交換をする中でユタサック総裁は、タイ人のインバウンド客を増やすアドバイスとして、タイ人の4つの特徴（①写真を撮るのが大好きなのでSNS映える所に好んで行く、②コスメやお菓子のショッピングが大好き（特に女性）、③日本料理が大好き、特に



タイ国政府観光庁にて。
ユタサック・スパソーン総裁と寒河江会長（山形県タイ友好協会提供）

和牛や郷土料理を好む、④お寺（特に縁結び）が大好き）を説明し、特にターゲット（女性、家族連れ、ヤングかシニア等）のセグメント分けが重要と説明された。特に重要なポイントとして、タイ人は女性が決定権を持っているため女性の心をつかむのが一番と強調された。

次に、ミッション団はタイ国際航空へ訪問した。同航空は2013年に仙台～バンコク定期便を運航していたがその後撤退した経緯がある。しかし、近年のタイ人のインバウンド客拡大等により復活を検討している。山形県への直行便実現（山形・庄内空港ともに）には今後の滑走路延長が不可欠とされるが、山形市内から約70分という仙台空港へ直行便が復活することは山形県へのインバウンド拡大の起爆剤ともなりえる。実際、昨年末、スメート・ダムロンチャイタム社長が来県し、吉村知事、寒河江会長とも面談をしている。



王宮周辺（山形県タイ友好協会提供）

今回はスメート・ダムロンチャイタム社長に代わってノン・カリンタ副社長と意見交換を行った。ノン・カリンタ副社長は日本に4年間駐在した経験がある。訪問後、意見交換を行う前に副社長から、先ほど決定したばかりの最新情報として「今年の11月か12月頃に仙台-バンコク定期便の復活がかなりの高い確率で実現するだろう。週3便、約300人乗りの機体で運行する」との情報が開示された。突然の情報にミッション団内では期待の聲が高まった。また、ミッション団に対し、仙台との定期便が復活すると周辺の山形も重要な観光スポットとなるため、ぜひ、観光地の紹介、プロモーションを行ってほしいとの希望の他、タイから日本へだけではなく、日本からタイへのアウトバウンドも重要であり、WIN-WINの関係を構築したいという意見も寄せられた。

その後、荘内銀行と提携しているカシコン銀行の本店を訪ねタイ経済セミナーを開催し、タイの基本的な経済情報や今後のタイ経済情報予測を学んだ。(詳細については後記している【タイ経済情報予測】を参考にいただきたい)

4日夕方には、同日訪問したタイ政府観光庁やタイ国際航空、タイの政府関係者の他、現在、山形市等がスポーツ交流を進めているオリンピックホストタウン覚書を調印したタイの柔道連盟、蔵王を活用した交流を進めているスキー連盟、バンコク県人会会員等を招き交流会を行った。交流会では山形県の観光プレゼンテーションを行い、山形県のPRに力を入れた。また、タイの元外相であるアーサー・サラシン氏と、そのご子息で現地の山形県タイ友好協会会員であるタイの旅行会社リアリーリアリークル(以下、RRC)の代表



タイ国際航空にて。ノン・カリンタ副社長とミッション団
(山形県タイ友好協会提供)



チェンマイにて、山形新聞・山形放送提唱「最上川さくら回廊」の海外版植樹(山形県タイ友好協会提供)

パティ・サラシン氏が紹介された。RRCではこの冬、タイから蔵王へのスキーツアーを商品化しており、本県のインバウンド拡大に一役買っている。パティ・サラシン氏から「実際にスキーと樹水を楽しみ、蔵王の魅力を感じた。蔵王がナンバーワンだ!」という嬉しい言葉も聞かれた。会員はそれぞれ招待者等と交流を行い、各自今後のビジネス展開や観光などの相互交流の促進に向けた有意義な時間となった。

なお、5日には、バンコクから北へ700kmのチェンマイへ場所を移動し、山形新聞、山形放送提唱「最上川さくら回廊」の海外版植樹を行った。チェンマイ県は日本にとっても観光地として有名であるが、タイの最北に位置する県の一つである。南国のタイで桜が育つ地としてギリギリ許容できる地域であった。今回の植樹では山形大学ならびに同大学とつながりのあるチェンマイ大学の他、駐日タイ王国大使館の口添えのもとチェンマイ県にも全面協力いただき、チェンマイ大学ハイランドセンターに20本の桜の植樹を行った。植樹には川田在チェンマイ日本国総領事、ウィルーンチェンマイ県副知事、ロームチェンマイ大学副学長等から出席を頂き、参加会員33名とともに植樹を行った。ローム副学長からは「桜の開花の期間は短い、山形県とチェンマイとの交流はこれから長く続いていく」とご挨拶も頂いた。

ミッション団に対する温かい歓迎ぶりに、会員からは「本日初めてお会いした気がしない。長年の友好関係のパートナーのようだ」とのコメントが出るなど、桜を通じた友好の絆は好スタートを切ることができた。

今ミッションは山形県へのインバウンド拡大がテーマの1つであったが、参加者がそれぞれの立場で手応

えをつかみ、今後の可能性を具体的に実感できたと思われる。特に行政や旅行関係の企業の方々には具体的な展望も見え有意義なミッションになったものと思われる。寒河江会長は訪問を支援してくれた特別顧問のバンサーン・ブンナーク大使らに感謝しながら「訪問先ではいずれも理解と協力を得られ、協会としての役割を十分に果たすことができた。交流を進めていく上で大きな自信になる」と今回のミッションを締めくくった。本協会はインバウンド拡大を当面のテーマに掲げつつ、経済、文化、スポーツなど幅広い分野での交流を促進し、山形県とタイ王国のWIN-WINの関係構築に励んでいきたい。

最後に、本協会ではホームページやフェイスブックを開設し、情報を発信している。協会会員は常に募集しており、ぜひ一度「山形県タイ友好協会」と検索していただければ幸いである。



ワット・ポーの涅槃像(山形県タイ友好協会提供)

訪タイミッション中、カシコン銀行で行った経済セミナーの内容(カシコンリサーチセンターが予測した2019年のタイ経済情報予測)をご紹介します。

タイ経済情報予測

カシコンリサーチセンター

2019年のタイ経済は18年と比べ減速傾向にある見込みである。公共・民間投資が、19年のタイ経済の最も重要な原動力となると予想される。一方で、輸出と民間消費は緩やかな拡大基調になると見込まれる。

タイ政府は、将来の経済発展を支える基盤を築くため、および経済成長を押し上げる景気対策の一つとして大型インフラ投資を推進している。19年の主要な公共投資は、バンコク北郊のドンムアン空港、東郊のスワンナプーム空港、東部ラヨン県のウタパオ空港という3つの空港を結ぶ高速鉄道プロジェクトだ。鉄道開発にともない、バンコク都内のエアポートレールリンク・マカサン駅前の土地24ヘクタールとシラチャー駅周辺の土地4ヘクタールを商業開発する計画もある。そのほかには、鉄道の複線化やスワンナプーム国際空港の第2期拡張事業など、現在進行中のプロジェクトもある。

その結果、19年の公共投資が昨年と比べ大幅に増加し、通常ケースで前年比7.0%増になると予測する。

一方で、民間投資も公共投資拡大に追随して上

向く見込みである。公共投資拡大および政府による民間投資の刺激措置により、投資家の信頼感が改善傾向に転じ、全体的な投資環境が改善すると予想する。19年の民間投資は通常ケースで前年比4.2%増になる見通しである。

民間消費には、依然として家計債務残高の重石や、農家の購買力未回復などの下押し圧力がかかる見込みである。しかしながら、タイ政府は、家庭向け消費を高めるため、低所得者向けの支援策や、農家向けの支援策など購買意欲の喚起を行う政策を引き続き実施する見込みである。したがって、19年の民間消費が前年をやや下回り、通常ケースで前年比3.6%増になると予測する。

19年は輸出拡大のテンポが減速する見込みである。世界経済の減速傾向や米中貿易戦争により外部要因の不確実性が増し、タイの輸出はさらなる下ぶれ圧力に直面すると見込まれる。

19年のタイ輸出額は通常ケースで前年比4.5%増になると予測する。したがって、19年のタイ経済成長率は通常ケースで前年比4.0%増の見通しで、前年をやや下回ると予想する。